

北海道における国際会議等 誘致の取組と現況について

2024年(令和6年)7月30日

北 海 道

1 国際会議等の北海道開催の推進



- 北海道では、2008年（平成20年）に開催された北海道洞爺湖サミットを契機に、国際会議等の誘致を強化
- 世界が注目する大規模国際会議はもとより、本道の個性を活かした様々な国際会議等の開催により、北海道ブランドを一層戦略的かつ効果的に世界に発信

『北海道の力が日本そして世界を変えていく』

基本方向1 潜在力発揮による成長 強み・特性を活かしたMICEの誘致
（北海道総合計画 R6.7策定）

『北海道の魅力や強みを活かした海外展開』

食や自然・環境など本道の強み・特性を活かしたMICEの誘致促進
（北海道グローバル戦略 R5.9改訂）

『新しい旅行スタイルの推進』

MICE・IR など新たなインバウンド等の取込方策の検討
（北海道観光のくにつくり行動計画 R3.11改訂）

北海道における国際会議 開催件数の推移と全国順位

年度	件数	順位
2018	116	10
2019	115	9
2020	3	13
2021	0	—
2022	23	8

（日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」）

北海道洞爺湖サミット以降における主な政府系国際会議

2009年5月	第5回	日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議（外務省）	【占冠村】
2010年5月	第12回	日中韓三カ国環境大臣会合（環境省）	【千歳市・苫小牧市】
2010年6月		日本APEC貿易担当大臣会合（外務省、経済産業省）	【札幌市】
2013年11月	第13回	日中韓特許庁長官会合（特許庁）	【札幌市】
2015年9月	第7回	日ASEAN防衛当局次官級会合（防衛省）	【札幌市】
2017年12月		ASEAN＋3財務大臣・中央銀行総裁代理会議（財務省）	【旭川市】
2019年10月		G20観光大臣会合（観光庁）	【倶知安町】
2023年4月		G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合（環境省、経済産業省）	【札幌市】
2023年7月		日ASEAN次官級交通政策会合（国土交通省）	【札幌市】

2 会議等誘致に向けた推進体制



北海道国際会議等誘致推進会議

オール北海道で国際会議等の誘致に取り組んでいくために立ち上げた官民協働組織であり、各構成員が持つ組織の機能を活かしながら相互に連携し、**誘致に向けた情報の収集や共有、要請活動、情報発信などを行う。**

北海道MICE誘致推進協議会

これまで北海道内で開催されたコンベンションにより培われたノウハウと協議会構成都市のネットワークを最大限に活用して「**北のおもてなし**」で、**魅力あふれる印象深いMICEの開催をサポート。**

【構成団体】

北海道／(公社)北海道観光振興機構、(公財)札幌国際プラザ、(一社)旭川観光コンベンション協会、函館市／(一社)函館国際観光コンベンション協会、釧路市／(一社)釧路観光コンベンション協会、北見市／(一社)北見市観光協会、帯広市／(一社)帯広観光コンベンション協会、(一社)登別国際観光コンベンション協会、苫小牧市／(一社)苫小牧観光協会



札幌



旭川



函館



北見



釧路



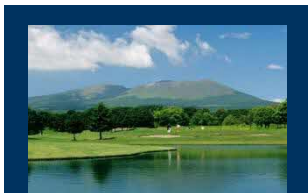
帯広



登別



苫小牧



▼URL
<https://hokkaidomice.com/>

学会や会議、大会等コンベンション開催への支援 (北海道コンベンション誘致促進事業費補助金)

■補助の対象となるコンベンション

- ・2日間以上にわたって開催されるコンベンション(学会、会議、大会等)
- ・北海道外(外国を含む。)からの参加者が全体の2分の1以上
- ・参加者が100人以上いること、国際会議は、参加者のうち20人以上が外国からの参加者
ただし、オンライン参加者、講演会等の一般参加者は除く
- ・道内広域に経済効果が見込まれるエキスカーション等に繋がる取組が計画されているもの
- ・開催される市町村またはコンベンションビューロー等から助成金が交付されるもの

種 類	参 加 者 数				補助限度額
国際的な コンベン ション	全体参加者	100人以上	かつ外国参加者	20人以上	100万円
	全体参加者	200人以上	かつ外国参加者	35人以上	200万円
	全体参加者	300人以上	かつ外国参加者	50人以上	300万円

※ 札幌市以外の市町村で開催されるコンベンションは、エキスカーションに対して最大20万円の補助(道独自加算)

※ 主催者が国または地方公共団体のもの、営利又は収益を目的としたもの等は補助の対象となりませんのでご注意ください。

▼詳しくは北海道のHPをご確認ください。

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/370-convention/convention_top.html

3 北海道の優位性



Steak



Melon



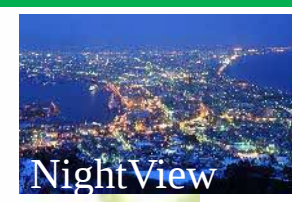
SeaFood



Ski



Hotspring



NightView

安全・安心の食

新鮮な食、美食の宝庫

食

観光
レジャー

豊富な観光資源

風光明媚な景観、多彩な温泉、様々な体験メニューが楽しめるアウトドア等

世界に誇る 北海道の財産

自然

豊かな自然環境と再生可能エネルギー

季節によって多彩な表情を見せる広大な大地や国内随一の再エネポテンシャル等を活かした
ゼロカーボン北海道(※)の取組

※2050年までに道内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする



オホshima風力発電所



ソーラーパネル

	7月	8月	9月
札幌	21.4℃	22.6℃	18.8℃
東京	26.4℃	27.7℃	24.2℃

過ごしやすい夏
～30年間の月別
平均気温～

種 別	道の導入ポテンシャル
風 力 発 電	全国 1 位
太 陽 光 発 電	全国 1 位
中 小 水 力 発 電	全国 1 位

「再生可能エネルギー情報提供システム(REPOS)」(環境省)による

4 歴史・文化の魅力発信



ウポポイ(民族共生象徴空間)

北海道白老町にオープン
(2020年7月)



◆**アイヌの歴史・文化を学び伝えるためのナショナルセンター**。開業から直近(2024.6.30現在)までの間で国内外から約120万人が来場。



提供(公財)アイヌ民族文化財団

道内の主なアイヌ文化関連施設



北海道博物館(札幌市)



平取町立二風谷アイヌ文化博物館



札幌市アイヌ文化交流センター



阿寒湖アイヌシアターイコロ(釧路市)

◆ウポポイの他にも、北海道内の各地にアイヌの歴史や文化を学び、見て、触れて、体験できる博物館や資料館などの施設が多数点在。

【ジオパーク】

- ・白滝ジオパーク(遠軽町)
- ・洞爺湖有珠山ジオパーク(伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町)



北海道・北東北の縄文遺跡群

世界文化遺産に登録
(2021年7月)



◆北海道・北東北の縄文遺跡群(北海道、青森県、岩手県及び秋田県)は、豊かな自然の恵みを受けながら1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産。



【日本遺産】

・カムイとともに生きる上川アイヌ
～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
(上川町、旭川市、富良野市、上富良野町、愛別町、比布町、当麻町、東川町、上士幌町、鹿追町、士幌町、新得町)



5 国際会議等の開催環境 ～ 主なコンベンション施設



札幌



◆ 札幌コンベンションセンター

- 主要施設
 - ・大ホール: スクール1,200人、シアター2,500人
 - ・中ホール: スクール238人、シアター600人
 - ・特別会議場: スクール252人、シアター700人

○主な開催実績

- ・APEC貿易担当大臣会合(2010年)
- ・第22回真空に関する国際会議(2022年)
- ・アドベンチャートラベル・ワールドサミット(2023年)

札幌 (検討中)



◆ (仮称)新MICE施設整備事業

- 整備場所: 市営地下鉄中島公園駅周辺地区
- 施設概要: 検討中

旭川



◆ 旭川市大雪クリスタルホール

- 主要施設
 - ・大会議室: スクール180人、シアター300人
 - ・レセプション室: スクール90人、シアター150人、立食100人

北見



◆ 北見芸術文化ホール (きた・アート21)

- 主要施設
 - ・中ホール : シアター420人

函館



◆ 函館アリーナ

○主要施設

- ・メインアリーナ: スクール2,279人、シアター5,000人
- ・サブアリーナ: スクール696人、シアター1,044人
- ・武道館、多目的会議室

その他地域の施設・開催実績

◆ ザ・ウィンザーホテル洞爺(洞爺湖町)

- ・北海道洞爺湖サミット(2008年)
- ・第8回日中韓賢人会議(2013年)

◆ 星野リゾートトマム(占冠村)

- ・第5回太平洋・島サミット(2009年)

◆ ニセコHANAZONOリゾート(倶知安町)

- ・G20観光大臣会合(2019年)

帯広



◆ とかちプラザ

○主要施設

- ・大集会室: スクール192人、シアター280人
- ・レインボーホール: シアター350人

○主な開催実績

- ・第1回G8水と衛生に関する専門家会合(2008年)
- ・食と環境・国際フォーラム2013(2013年)

釧路



◆ 釧路市観光国際交流センター

○主要施設

- ・大ホール: スクール1,200人、シアター1,500人
- ・視聴覚室: スクール63人、シアター100人

○主な開催実績

- ・ラムサール条約締結国会議(2013年)
- ・東アジア・オーストラリア地域
フライウェイパートナーシップ(2015年)

6 国際会議等の開催環境 ～ 北海道とのアクセス



国際航空路線

道内空港(新千歳・函館・旭川)発着の国際定期航空路線は**11路線**、**6ヶ国・地域**、**9都市**



R6.7.1 現在北海道調べ

北海道新幹線

東京⇄新函館北斗間は最短で**3時間57分**

新幹線札幌駅デザイン案(外観イメージ:南側近景)
※JR北海道R4.3.16プレスリリース資料より



新小樽(仮称)
倶知安
長万部
札幌
奥津軽
いまべつ
新青森
新八雲(仮称)
新函館北斗
木古内



○JR北海道は、時速320kmでの走行、札幌開業時に
東京・札幌間4時間半を目指すと発表。

7 道内における国際会議の取組事例 都市部(札幌市)



「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」の事例

- 日程 2023年4月15日(土)、16日(日)
- 場所 札幌プリンスホテル
- 参加国・招待国 カナダ、EU、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国、インド、インドネシア、UAEほか招待機関
- 参加者数 650人
- 結果概要
 - ・経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、炭素中立、循環経済、自然再興を統合的に実現するため、経済社会システム全体の変革であるグリーントランスフォーメーション(GX)のグローバルな推進等について議論。
 - ・会合では、西村康稔経済産業大臣と西村明宏環境大臣が共同議長を務め、共同声明とその附属文書を採択。



道と札幌市で連携し、機運醸成、おもてなしなど地元関連事業で開催をサポート！

開催までの流れ

- 道と札幌市で連携し、約3ヶ月で「実行委員会の立ち上げ」、「事業計画、予算計画の策定」を行い、1月から機運醸成事業を開始。
- 9/中旬 札幌市での開催決定
 10/中旬 市が準備組織を立ち上げ(翌月、道職員5名を派遣。計17名体制に)
 12/ 1 官民からなる実行委員会を立ち上げ(会長:市長、顧問:知事)
 12/中旬 事業計画、予算を決定(総事業費1億、道、市は補正予算)
 1月～ 地下街での柱巻き広告、シンポジウムなど機運醸成事業開始



本体会合と地元関連事業

- 道民、市民の当事者意識や参加感を高めるため、会合テーマに合わせた市民参加型イベントを開催。
- 道、札の魅力をPRするため、地元主催レセプションやエキスカーション等を実施

地元 主催 レセプ ション	環境広場 ほっかいどう2023(1日目) 〔札幌ドーム〕  		環境広場 ほっかいどう2023 (2日目) 〔札幌ドーム〕		エキスカー ション
	〔京王 プラザ ホテル 札幌〕		エキス カー ション 〔大倉 山等〕		
	大臣 会合 (1日目) 〔札幌 プリンス ホテル〕	政府 主催レセ プション 〔パーク ホテル〕	大臣 会合 (2日目) 〔札幌 プリンス ホテル〕	記者会 見	 

8 アドベンチャートラベルを通じた外国人観光客の誘客



アドベンチャートラベル(AT)とは

一般的な定義

- 「**アクティビティ**」・「**自然**」・「**異文化体験**」の3要素のうち、2つ以上を含む旅行形態。

出典: ATTA (アドベンチャートラベル・トレード・アソシエーション)



より本質的な理解



- 「アクティビティ」を通じて「自然体験」や「異文化体験」を行い、地域の人々と双方向で触れ合い、楽しみながら、**その土地の自然と文化をより深く知る**ことで、**自分の内面が変わっていくような旅行形態**。

- 「アクティビティ」は**手段であり、目的ではない**。

- 「**サステナビリティ**」や旅行を通じた「**地域貢献**」を**重要視**する層からも支持されており、主にヨーロッパや北米、オーストラリアを中心に人気が高まっている。
- 世界**市場規模は70兆円を超える**と言われており、旅行者一人当たりの消費額や地域への経済波及効果が大きく、今後、**需要拡大が期待できる観光分野**として注目を集めている。



北海道のポテンシャル

アクティビティ

- トレッキングやサイクリング、カヌー、SUP、野生動物観察、スキーなどの「**多様なアクティビティ**」



自然

- 世界自然遺産の知床をはじめとした国立公園などの「**美しく雄大な自然**」



異文化体験

- アイヌ文化や世界文化遺産の縄文遺跡群といった「**北海道独自の文化**」



- 北海道は、四季を通じて楽しめるATコンテンツが豊富であり、まさに**アドベンチャートラベルの適地**と言える。

ATは北海道観光の成長分野

9 アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本 (ATWS2023)の開催



アドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)とは

○アドベンチャートラベル・トレード・アソシエーション(ATTA)が主催する**世界最大のATイベント**。

○2023年の北海道大会は、**アジアでの初の実地開催**となった。(※2021年大会はバーチャル開催)



【日 程】令和5年(2023年)9月11日(月)～14日(木)

【主会場】札幌コンベンションセンター(札幌市白石区)

【参加者】**64の国と地域から773名**(ATTA発表)

ATWS2023
開催の記録



会期前AT体験ツアー

会期前には、バイヤーやメディアに向け、道内15コース、道外7コースの**プレ・サミット・アドベンチャー**が実施された。



©Hassen/ATTa



©Hassen/ATTa

日本最北の地を目指して
上川・宗谷 カヌーとサイクリング

会期初日AT体験ツアー

会期初日には、札幌市を起点とした道内31コースで日帰りの**デイ・オブ・アドベンチャー**が実施された。



ゼロカーボンパーク支笏湖
苔の回廊ハイキングとクリアカヤック

講演会・商談会等

会期2日目～4日目には、各種**講演会、セミナーや商談会**が行われたほか、様々な文化体験等が実施され、参加者が北海道・日本に触れる機会が提供された。



会場の様子 ©Hassen/ATTa

会期後の招聘事業

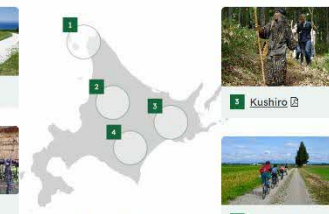
会期後には、自治体・DMO等が中心となって立案した道内4地域(宗谷・上川・釧路・十勝)で**ポスト・サミット・アドベンチャー**が実施された。



1 Soya



2 Kamikawa



Click for more info!



3 Kushiro



4 Tokachi

Post Summit Adventure
in Hokkaido

**国際会議等の北海道開催の推進について
各省庁の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。**

【お問い合わせ先】

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
北海道総合政策部国際局国際課国際企画係
TEL:011-231-4111(内線:21-234)
FAX:011-232-4303